

下水道事故対応訓練 アンケート結果

令和 8 年 7 月 28 日開催 | 回答 27 件

結果のポイント

88.9%	74.1%	85.2%
座学を 「良い」と評価	資器材説明を 「良い」と評価	救助訓練を 「良い」と評価

※5 段階評価のうち、「4」または「5」と回答したものを「良い」として整理しています。

全体から見てきたこと

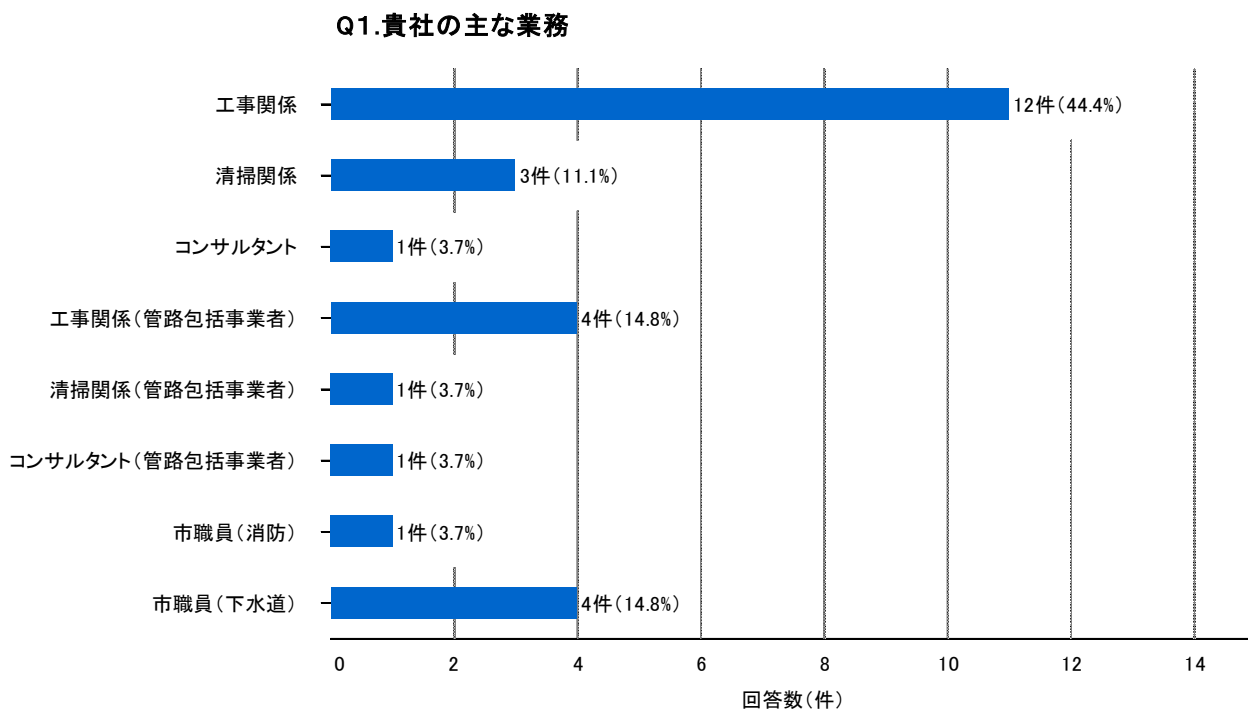
座学と救助訓練は特に高い評価となりました。自由記述では、「自分で無理に救助に入らないことの大切さ」や「消防へ正確に情報を伝えることの重要性」を実感したという声が多く寄せられました。

アンケートの構成

- Q1 主な業務
- Q2 事故防止検討会(座学)
- Q3 下水道事業所の保有資器材確認・説明
- Q4 救助訓練(展示)
- Q5 其他のご意見・ご質問等

Q1. 貴社の主な業務

どのような立場の方から回答をいただいたかを整理しました。



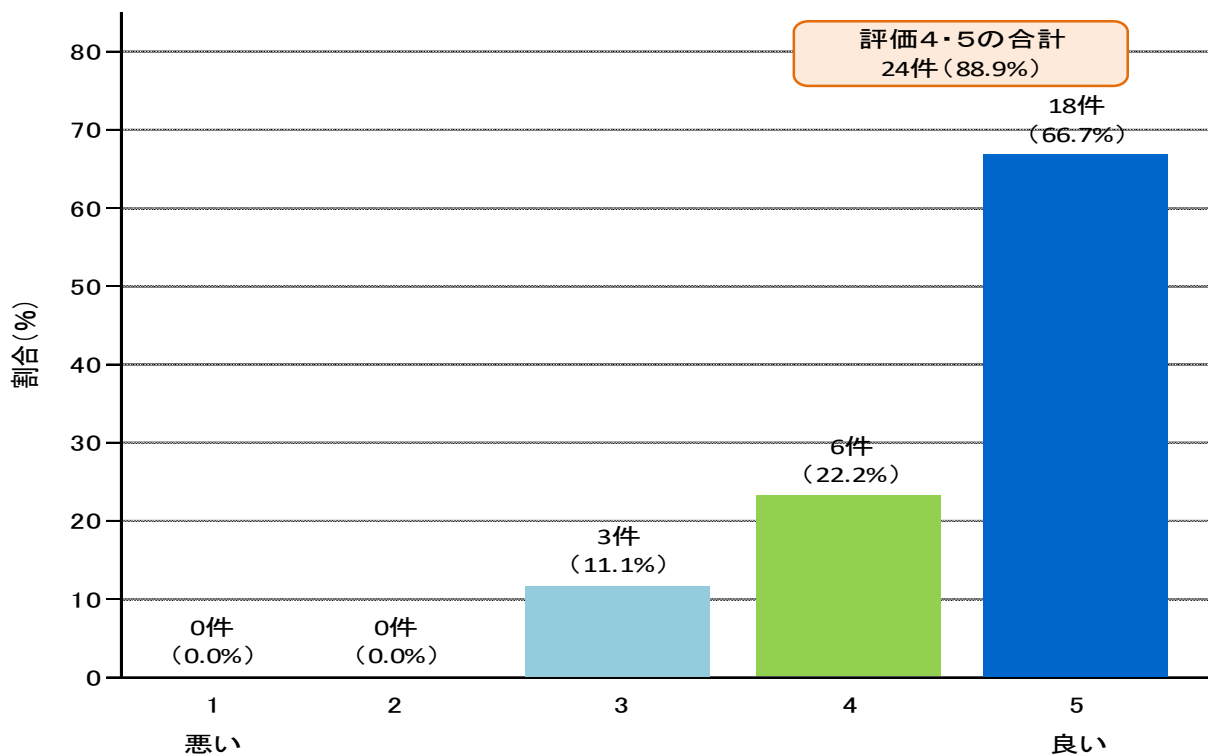
ここから分かること

現場で作業する方を中心に、清掃関係、コンサルタント、管路包括事業者、市職員など、さまざまな立場から回答が集まりました。複数の視点から訓練を振り返ることができます。

Q2. 事故防止検討会(座学)について

事故発生時の初動対応や、消防への情報伝達について学ぶ座学を行いました。

Q2.事故防止検討会(座学)について



88.9%

「4」または「5」と回答した件数 24 件

参加者の声から

初動対応、消防へ伝える情報、消防隊が到着するまでの準備などが分かりやすかったという声がありました。特に、目の前の仲間を助けたいと思っても、装備のない状態では自分が救助に入らないことが、二次災害を防ぐために大切だという学びが印象に残ったことがうかがえます。

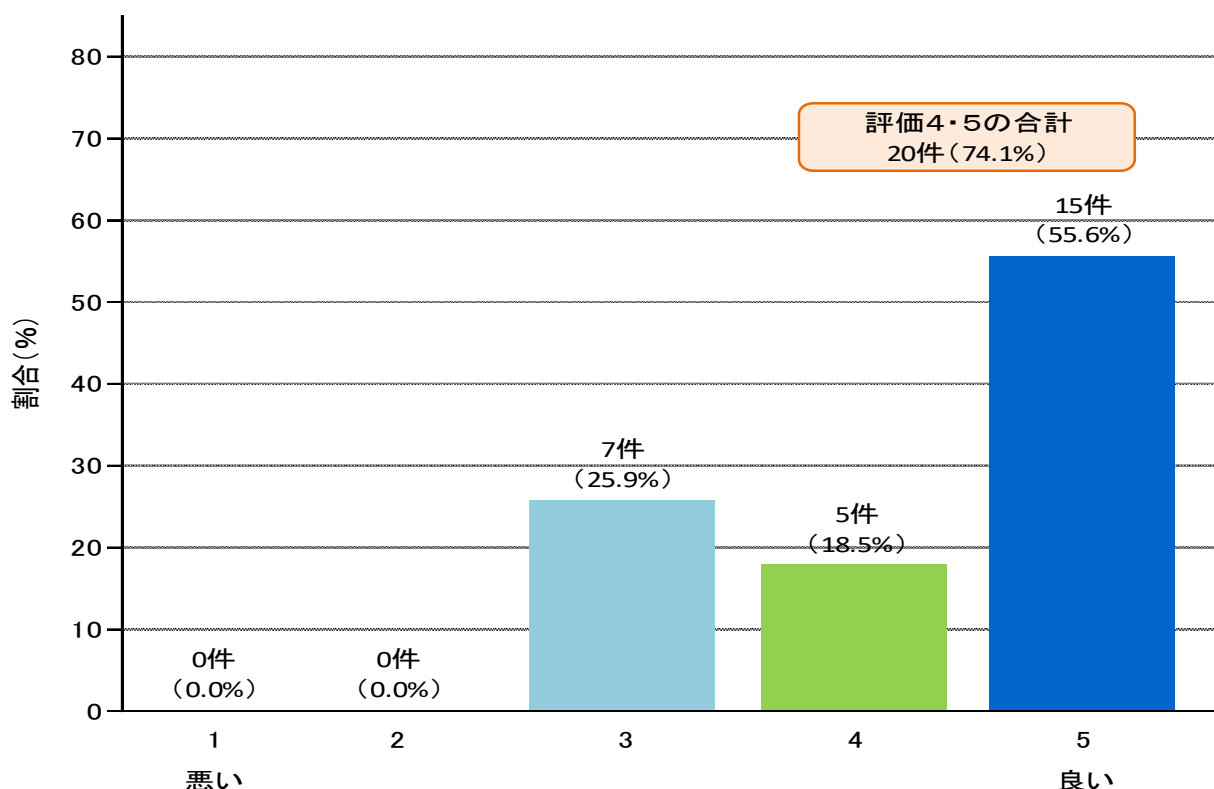
今後につなげたいこと

座学で学んだ内容を、日々の安全確認や現場での情報共有にも生かす。

Q3. 下水道事業所の保有資器材確認・説明について

普段の下水道作業で使用している資器材について、使用目的や安全管理の考え方を確認しました。

Q3. 下水道事業所の保有資器材確認・説明について



74.1%

「4」または「5」と回答した件数 20 件

参加者の声から

普段使用している資器材を改めて確認できたことや、安全管理の方法を他の事業者と共有できたことを評価する声がありました。一方で、他の設問と比べると評価 3 もやや多く、「救助時にどのように使えるのか」まで具体的に知りたいという要望も見られました。

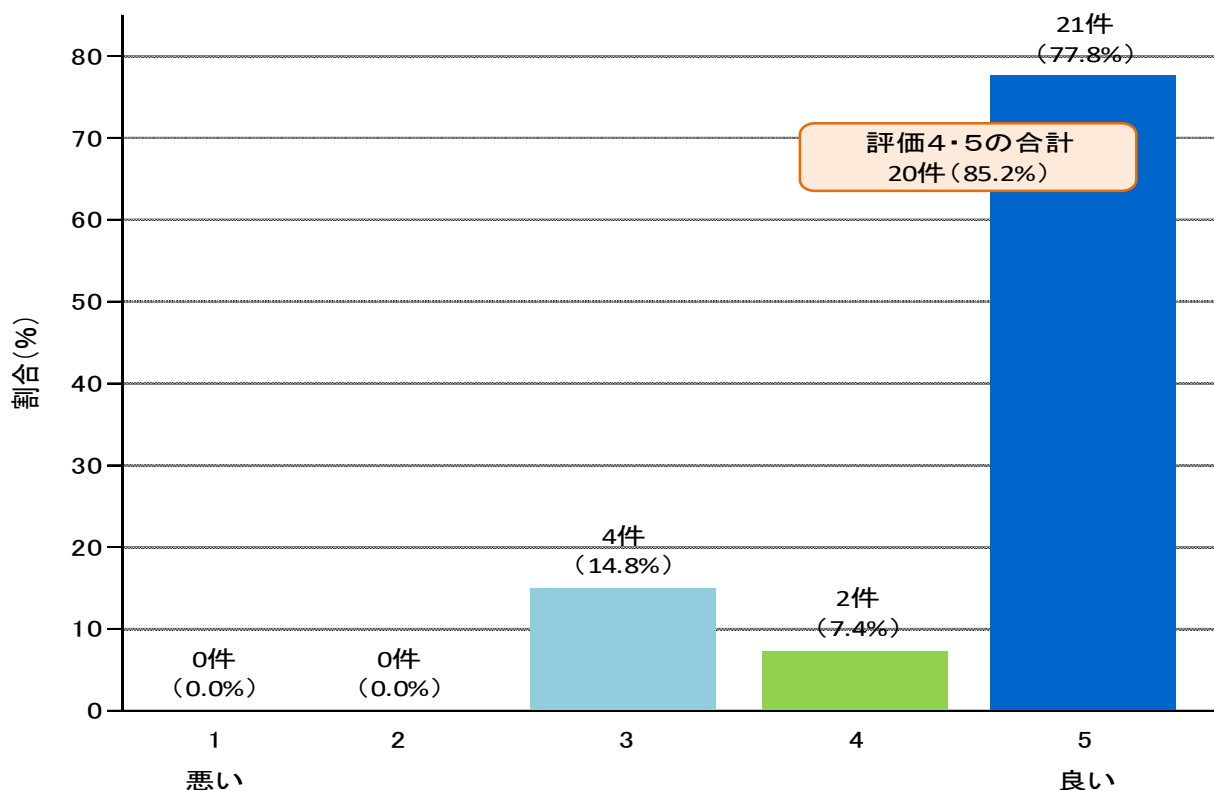
今後につなげたいこと

資器材の説明では、通常の作業時だけでなく、万が一の事故や救助の場面でどのように役立つのかもイメージしやすい説明を検討したい。

Q4. 救助訓練(展示)について

マンホール内で作業員が意識を失った状況を想定し、消防隊の救助活動を見学しました。

Q4. 救助訓練(展示)について



85.2%

「4」または「5」と回答した件数 20 件

参加者の声から

実際の救助活動を間近で見ることで、マンホールという特殊な環境での救助の難しさを実感したという声が多くありました。また、安全のために使用しているハーネスが救助時にも活用できることに驚いたという意見もあり、作業時だけでなく万が一の救助まで考えて備えることの大切さが共有されました。

大切なポイント

事故が起きたときは、無理に救助に入るのではなく、自分自身の安全を確保し、消防へ正確な情報を伝えることが、結果として迅速な救助につながります。

Q5. その他のご意見・ご質問等

自由記述でいただいた声を、内容ごとに整理しました。

7 件

Q5 への自由記述が寄せられました。
個人が特定される可能性のある表現は掲載せず、
趣旨を要約しています。

多く寄せられた声

安全意識・事故防止

訓練で学んだ内容を現場の安全管理や KY 活動に生かしたい、事故を起こさないことを第一にしたいという声がありました。

消防との連携

消防へ伝えるべき情報や、消防到着までの準備が理解できたという声に加え、通報から引継ぎまで含めた訓練を希望する意見もありました。

資器材・装備

ハーネスや各種資器材について、通常作業だけでなく救助時の活用方法も知りたいという声がありました。

訓練の進め方

座学資料の共有、質問・意見交換の時間、より多くの参加者が同じ内容を共有できる運営を望む意見がありました。

アンケート全体のまとめ

- 座学と救助訓練は高い評価となり、初動対応や二次災害防止への理解が深まったことがうかがえます。
- 資器材の説明は、救助時の活用まで含めて具体的に伝えることで、さらに分かりやすくできると考えられます。
- 今後は、今回の学びを関係職員や事業者へ共有し、現場の安全意識を広げていきます。
- 通報から消防への引継ぎ、資器材の活用、質疑・情報共有など、いただいた意見を今後の訓練や安全管理に生かしていきます。